

 <p>放送大学</p>	<p>放送大学茨城同窓会会報</p> <h1>ときわ</h1>	<p>発行所 放送大学茨城同窓会(茨城学習センター内) 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1(茨城大学内) 発行人 会長 矢野 正義 会員数 115名</p>
	<p>茨城同窓会サイト：http://ibaraki.ouj-dosokai.net/ サークル合同サイト：http://open-university.yokappe.net/</p> 	

1 放送大学茨城学習センター事務長のご挨拶..... 1	4. 1 イベントのお知らせ..... 6
2 同窓会副会長挨拶..... 2	4. 2 茨城同窓会の HP/ML のご案内..... 7
3 行事報告..... 3	4. 3 会費納入のお願い..... 8
3. 1 学士・修了論文発表会..... 3	5 会員便り..... 8
3. 2 オープンキャンパス・学園祭..... 3	5. 1 新入会員紹介..... 8
3. 3 平成 25 年度 2 学期入学生歓迎の集い..... 4	5. 2 新入会員挨拶..... 9
3. 4 合同研修会..... 4	5. 3 文芸コーナー..... 10
3. 5 学生講演会・忘年会..... 5	5. 3. 1 エッセイ..... 10
3. 6 連合会/30 周年記念行事..... 5	5. 3. 2 川柳..... 13
4 お知らせ..... 6	6 放送大学から 10 月生募集のお知らせ... 13
	7 編集後記..... 14

1 放送大学茨城学習センター事務長のご挨拶

茨城学習センター事務長 栗田稔

『同窓会皆様への感謝』

放送大学茨城同窓会の皆様には、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素より、茨城学習センター運営等に対しましては、温かいご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

私は、昨年3月に茨城大学を定年退職して、4月より縁あって2回目の茨城学習センター勤務となりました。前回は、平成12年4月より3年間勤務しましたので、ちょうど10年ぶりにお世話になることになりました。10年前とは施設等の環境も変わり、目に見張るものがあります。当時、一番苦勞しましたのが単位認定試験や面接授業、その他の行事開催における会場探しです。1年前から母体校である茨城大学の教室等を予約し借用するのですが、なかなかうまく調整がつかずに苦勞していたことを思い出します。それが今は施設の環境も整い会場もセンター内で出来るようになり幸せを感じておりますが、当時在学されていた方には、相当ご不便を掛けて申し訳

なく思っています。

当時の顔見知りの学生さんが今も在学し、同窓会でご活躍されているのを見てみると、私自身もっといろいろの面で頑張らないといけないとつくづく感じています。



同窓会の皆様には、オープンキャンパス・学園祭、新入生や在学生に対する学習相談、学生講演会、学生研修旅行、学生論集の編集、学生募集期間中には広報活動にも関わっていただき、体験談などをお話いただくことで入学動機となり、入学者増に向けた活動等々、学習センターの運営に多大なるご協力を賜り感謝に堪えません。今後においても、同窓会の皆様とは常にコミュニケーションを図り、「学び」を応援するために微力ではありますが、少しでも学習環境の良いセンターを目指して行く所存でございますので、同窓会の皆様には、今まで以上にご支援、ご協力をお願いすることが多々あると思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

同窓会の皆様には、オープンキャンパス・学園祭、新入生や在学生に対する学習相談、学生講演会、学生研修旅行、学生論集の編集、学生募集期間中には広報活動にも関わっていただき、体験談などをお話いただくことで入学動機となり、入学者増に向けた活動等々、学習センターの運営に多大なるご協力を賜り感謝に堪えません。今後においても、同窓会の皆様とは常にコミュニケーションを図り、「学び」を応援するために微力ではありますが、少しでも学習環境の良いセンターを目指して行く所存でございますので、同窓会の皆様には、今まで以上にご支援、ご協力をお願いすることが多々あると思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

2 同窓会副会長挨拶

放送大学茨城同窓会副会長 齋藤保

『生涯学習の場として』

茨城同窓会の皆様如何お過ごしでしょうか。皆様には常日頃より同窓会に対してご協力ご支援を頂いておりますことを感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は企業を退職時に、放送大学のパンフレットを町で見つてすぐに入学手続きをしました。最初の年は沢山の科目を選択し四苦八苦しながら認定試験に挑戦していましたが、その後自分のペースをつかみ卒業と再入学を繰り返し11年が過ぎました。同窓会への入会は誘われるままに入会し、長く在籍していることだけで副会長に推薦され2年過ぎてしまいました。

同窓会には、再入学して学生である人も多く、又現役のまま入会した人もいます。同窓会は会員相互の交流・親睦を図ることはもとより、学生からの学習相談にも応じるなどを通して学生との交流・親睦をはかることにも心がけております。

平成25年度も終わり新しい年度になります、ここに「ときわ24号」をお届けします。平成25年度後半期の実施行事項目を次に記しますが詳しい内容はこの会報に記載されていますのでお読み下さい。

■学習センター実施行事に同窓会も参画した項目

- ① 10月13日 オープンキャンパス・学園祭
- ② 11月10日 共催による合同研修旅行
- ③ 12月1日 学生公開講演会

■同窓会の実施行事項目

- ① 8月18日 修士・学士論文発表会
- ② 10月5日後期新入学者の集い開催
- ③ H26年2月28日－3月2日 国内研修旅行



放送大学学則にある放送大学の目的に「・・・新しい教養の理念を追求し、放送を活用して大学教育を行い、併せて広く生涯学習の要望に応えること」とあります。放送大学での学習は孤独と忍耐の場であるといわれています。学生同士の交流は薄く、情報交換の機会も少ないと感じておられるのではないのでしょうか。同窓会の会員には、さまざまな世代の人、さまざまな経歴を持った人、その部門のエキスパートの人もおります。

同窓会にはこうした多様な人達との交流できる“場”があり、各種行事に参加する“場”もあると思います。これらが生涯学習の一つの“場”となるのではないのでしょうか。

3 行事報告

3.1 学士・修士論文発表会

2013年8月18日に同窓会主催による修士・学士論文発表会が学習センターで開催されました。発表者と発表内容は次の通りです。

(1) 佐藤達也 (心理と教育卒業)

日本の脱タバコの遅れ

(2) 山下功 (自然環境科学プログラム)

製品設計における数式の適用 (弁機構の数学的解析)

それぞれの発表後熱心な質疑応答がありました。

(3) 白石 茨城学習センター長による所感およびアドバイス

この論文発表会はどなたでも聴講できます。論文作成に挑戦しようとする人には、テーマ選定の仕方、作成にどれほど時間を費やしたか、どういう点に苦労したか、など参考にできることが多くあると思います。次回にも多くの聴講者の参加をお待ちしています。

(齋藤保 記)



3.2 オープンキャンパス・学園祭

第5回、オープンキャンパス、学園祭が今年も、茨城学習センターにて10月13日に盛大に行われた。



学習センター職員、各サークル及び放送大学茨城同窓会で実行委員会を組織し、会議を重ねながら関係各所への広報活動、横断幕や立て看板の作成、会場の設営、駐車場案内などきめ細かな準備が進められた。

学園祭の公開講演には茨城大学、新田洋司教授による「バイオ技術で放射能吸収」と意外ともいえるアイデアで浅い土壌から植物が吸収する仕組みを話された。

また呼び物の人形浄瑠璃では筑波山のふもと真壁町から古くから受け継がれてきた「白井浄瑠璃」のグループ10余名で移動特設舞台を設営した。演目は「女夫松菟玖波曙」。義太夫は同窓会会員の佐藤春子さん、操る人形と呼吸の合った舞台は大勢の観客を魅了した。また人形に触れることのなかったが、実物の人形は重くて指の扱いをはじめ感情の出し方に至るまでには年季が要り難しそうでした。

今年もまた、パソコンクラブ、ふるさと探勝会、英会話サークル、ゴルフサークル、数学共楽会、香り文化サークルのサークル紹介や放送大学叢書販売、絵画の展示などがあった。

放送大学シンボルマーク入りのTシャツ着用で一般の来客からは係員が一目わかり、説明を受け易かったとのことであった。

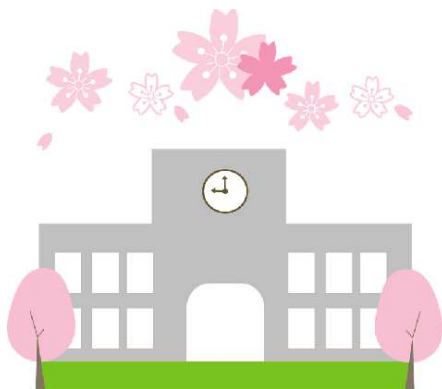


(細川力 記)

3. 3 平成25年度2学期入学生歓迎の集い

平成25年10月5日(土) 2学期入学者の集い後、同窓会主催の「歓迎懇親会」を開催しました。いつも通り同窓会員が出席のお誘いをし、100円会費で30数名の方が参加して下さい、総勢50名ほどの会になりました。

今回は白石センター長のご要望により、皆さんがどのような方法で放送大学を知り、入学に至ったかを含めて全員インタビューを致しました。



「パンフレットを見て」が多く、それは郵便局、図書館、自宅のポスト等でした。その他インターネット、NHK教育テレビ、なかには茨大周辺を走っていたら「放送大学」が目に入り、ホームページを見て面白そうだったので、という方もおられました。

今回のインタビューでは、仕事で学位や大学の単位が必要になった、という方がいつもより多いと感じられ、目標達成への期待が膨らみました。

(立原やい子 記)

3. 4 合同研修会

『那須大田原市の史跡めぐり』

学習センター主催、同窓会・ふるさと探勝会共催「大田原市史跡めぐり」(ふるさと探勝会第54回例会)は11月10日(日)曇り空のもと、実施された。

水戸から久慈川沿いに北上、大子町を經由して、まず八溝山の懐に静かに抱かれた雲巖寺を訪問、荘厳な雰囲気を味わった(写真)。



次いで総茅葺き本堂の大雄寺と芭蕉句碑のある芭蕉の館、黒羽城址公園を散策。与一の郷で昼食休憩、一息ついた後すぐ近く的那須神社に参拝。

午後は国宝那須国造碑（日本三古碑の一つ、700年頃建立）を安置する笠石神社を訪問。官司から説明を受ける。さらに水戸光圀の命により発掘された下侍塚古墳を訪れ、大田原市歴史民俗資料館の学芸員から古墳と周辺の遺跡について説明を受けた。那須国造碑、

侍塚古墳ともに水戸光圀が深い関心を寄せ度々訪れたようです。

那須の歴史を訪ねる秋の一日であった。参加者35名。

（吉村政一 記）

3.5 学生講演会・忘年会

放送大学茨城学習センターから知の発信として、恒例の第4回学生講演会を、2013年12月1日、茨城県立図書館で開かれた。3人の学生が、「放送大学の学びと地域社会活動」として、発表し、好評裡に終了されました。

まず、川村優一氏（生活と福祉コース）は、再生可能な自然エネルギー活用への取り組みについて、いばらき自然エネルギーネットワーク・エコカレッジ23の出前授業を中心に発表いただきました。

次に、鈴木一三氏（文化科学研究科）は、新聞投稿20年の集大成『歳月は流れて』について、新聞投稿20年、社会への発信と出会いの面白さを語っていただきました。

最後に、高柳美伊子氏（生活と福祉コース）は、茨城県内の救命救急体制と疫学指標の関連性について、救急医療体制・病床数と疾患別標準化死亡比について統計的に解析した結果を発表いただきました。

最後に、白石センター長から発表者への講評と本講演会が全国の学習センターの活動の中で注目されていることを報告いただき終了しました。

学生講演会終了後は、「はなの舞水戸南口店」にて、報告者を交えて忘年会が開催されました。



（川村優一氏の発表風景）

（葛貫壮四郎 記）

3.6 連合会/30周年記念行事

『放送大学創立30周年記念シンポジウムに出席』

昭和58年4月に設置された放送大学は、平成25年4月に創立30周年を迎えた。これを記念して、10月29日（火）に放送大学創立30周年記念シンポジウムが、ANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催された。

放送大学に設立の携わってきた政界・学校関係者、歴代学長、同窓会連合会の歴代会長他多数の参加者が一堂に集まりました。

記念シンポジウムでは、「学ぶ。世界が変わる。－放送大学のチカラ－」と題して、吉田光男副学長の司会のもと、岡部洋一学長、湖月わたる氏（放送大学卒業生・女優）、早川信夫氏（NHK解説委員）、中島尚正先生（海陽中等教育学校校長）、崎元達郎先生（熊本学習センター所長）と多彩なパネリストを迎えて、放送大学のチカラを議論していただきました。放送大学の素晴らしさを認識できた1日でした。

記念シンポジウム終了後は、大懇親会が同ホテルで開催され、関係者一同、30周年を喜びました。



（葛貫壮四郎 記）

4 お知らせ

4.1 イベントのお知らせ

■新入学者歓迎茶話会

“入学者の集い”に引き続き歓迎の茶話会を行います。
ご参加をお待ちしています。

- ・日時：2014年4月5日 14時30分～16時
- ・場所：放送大学茨城学習センター3F第3講義室
- ・参加費：100円

■茨城同窓会総会のご案内

平成25年度茨城同窓会の総会を行います。同窓会員の皆さまのご参加をお願いします。
総会に引き続き講演会、大懇親会を行います。

・日時：2014年4月20日（日）

総会	13:30から14:30
講演会	14:30から15:30
大懇親会	17時30分から19時30分

・場所：

総会、講演会	茨城学習センター3F会議室
大懇親会	水戸駅南プレジデントホテル9F レストランふう（中華バイキング）

会費 男性5,000円、女性4,000円

・講演題目と概要： 『茨城宇宙電波望遠鏡の誕生秘話』

高萩市と日立市十王町にまたがって2基の大型宇宙電波望遠鏡が稼働しています。現在、北海道から沖縄、小笠原の国内及び上海の電波望遠鏡と連動した超長基線電波干渉計観測の拠点として星形成などの天体観測に成果を挙げています。この施設の立ち上げ経緯を含めて最近の研究成果についてお話しします。

■卒業/修了論文発表者募集

恒例の卒業論文、修士修了論文の発表者を募集致します。

実施時期は2014年8月、論文を60分程度にまとめて講演していただきます。卒業論文、修了論文それぞれ1～2名を予定しています。該当の方々奮ってのご応募をお待ちしています。

申込は放送大学茨城学習センターまたは茨城同窓会にお願いします。

茨城同窓会会長：矢野 正義

Mail：yanoma@krc.biglobe.ne.jp

4. 2 茨城同窓会のHP/MLのご案内

茨城同窓会のHP（ホームページ）は、同窓会連合会のHPの元に開設しています。最近の情報や機関誌など掲載していますので御覧ください。また、会員同士のメールにより情報共有としてML（メーリングリスト）を開設しています。メールアドレスがあるかたで登録されていないかたは、

葛貫までご連絡ください (s.kuzunuki@yokappe.net)。

茨城同窓会 HP アドレス: <http://ibaraki.ouj-dosokai.net/>

茨城同窓会 ML アドレス: airtokiwa@googlegroups.com

4. 3 会費納入のお願い

三年前に会費を納入された方(同窓会から各人に連絡します)は、会費納入の時期です。同窓会会費振込みは下記の郵便口座へ納付願います。郵便局で自分の郵便口座から ATM で振り込むと振込手数料は無料です。

郵便口座番号	00110-0-750049
加入者名	放送大学茨城同窓会
金額	3000円

(大槻解子 記)

5 会員便り

5. 1 新入会員紹介

平成26年3月現在での新入会員をご紹介します。新しい仲間としてパワーをもらったり与えたり、大いなる活躍を期待致します。

氏 名	住 所	専門科目	卒業年
沼田 久美子	日立市	生活と福祉	H23-3
山本 廣泰	東京都	心理と教育	H25-3
井坂 紀子	小美玉市	大学院修士選科	継続中
宮内 健	ひたちなか市	心理と教育	H25-9
五十嵐 綾	常陸太田市	生活と福祉	H25-3
網谷 茂	ひたちなか市	心理と教育	継続中
石田 紀久	水戸市	自然と環境	継続中

F r e s h m e n



5.2 新入会員挨拶

「放送大学茨城同窓会」に入会してというタイトルで以下の新入会員の方から挨拶をいただきました。

生活と福祉コース 沼田久美子

茨城に入学したものの交通の便などの理由でいわきサテライトに変更して9年間でやっと卒業できました。丁度震災の時で一年遅れて憧れのNHKホールで卒業式の喜びを味わうことができました。水戸の学習センターまつりに二年間参加して同窓会に入ることができることを知りました。色々な楽しい行事も聞いており母の介護をしながら放送大学と繋がって行けたらと思います。

心理と教育コース 網谷茂

ひたちなか市の網谷茂です。放送大学の卒業生だけでなく、在生も同窓会に入会できるということで、皆様の仲間に加えさせていただきました。

もともと現役時代はエンジニアとしてロボットの設計製作を中心とした会社員生活を送っていましたが、人生後半にさしかかると、こころとは何だろうということに興味をもち始め、人間そのものに対する興味も強くなり、他大学の講義の聴講や公開講座を受講していました。そうこうしているうちに、本格的に学びたくなり、一昨年に放送大学の選科履修生として入学し、昨年4月から全科履修生として心理学を中心に学んでいます。

入学動機ともなった「知識は人生を変える」「教養とは人を理解する力である」というキャッチフレーズを心のささえとして、皆様と楽しく学生生活を送ればと考えています。よろしく願いいたします。

生活と福祉コース 五十嵐綾

親から「勉強しなさい。」という言葉に反感を持ち、小さい頃勉強しませんでした。この言葉の意味を今になり、実感しています。放送大学は自らが学ぶ場であり、それをどのように今後の人生に生かすことができるかは、自分自身であると実感できる学習の場であると思います。

私は放送大学に入学した時一人で学習して、卒業するだけだと思っていました。しかし、面接授業、サークル活動、ゼミ等に参加することで、様々な年代の方々と交流ができ、机の勉強だけでなく、人生の学習ができ、放送大学の生活を楽しんでいます。

今後も様々な活動に参加していきたいと思っていますので、宜しくお願いします。



5. 3 文芸コーナー

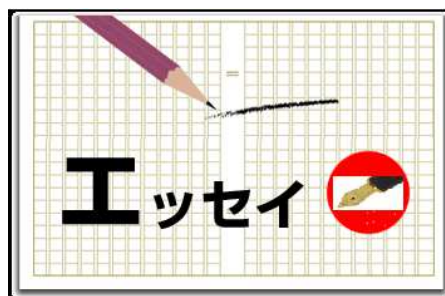
5. 3. 1 エッセイ

『雪の中に』

佐藤 春子

新潟県上越市は日本有数の豪雪地帯である。昭和五十八年から二年間、夫はその高田へ役所勤めの為単身赴任していた。ことに五十九年の冬は、二年続きの大雪で十五年ぶりという積雪となった。この冬の雪の中に、忘れることのできないひとつの風景が、一枚のモノクロ写真のように私の中に残っている。

私と当時大学二年だった息子とが、あと二分で明日になるという時刻の上野発直江津行きの夜行列車に乗ったのは、十二月二十八日であった。車中はスキーへ行く若者やふるさとで正月を迎える人々でいっぱいだったが、深夜とあってさすがに子供づれは少ない。なんとか席に落着き電車が発車すると、間もなく車内放送が流れたのはいつもと変わりがなかったが、その後このようなアナウンスがつづ



いた。「お客様には大変ご迷惑をおかけしますが、この列車は積雪のため、長野直江津間が不通となり、長野駅終着となります。なにとぞご協力下さいますようお願いいたします。」

二人は顔を見合わせて困惑したように少し笑った。高田へは三日前、冬休みに入った娘が父親のところへ先発していた。私の仕事の区切りをつけてのその日の出発であった。でも長野は私の故郷である。早朝長野に着き実家でひとやすみしているうちには、列車も動くであろうと思ったのである。

長野駅に着いたのは五時前であった。寒さは厳しいが雪は少なく、この先が不通などとは考えられないぐらいであった。一年前父を亡くした母は、思いがけず早朝の玄関に現われた二人を歓迎して、炬燵を掘りかえすやら朝食の支度やらしてくれた。天気予報によると、上越地方の雪はやむ様子はなく、列車の不通も正月まで続くであろうとテレビのニュースであった。高田へ電話すると娘はもう半泣きで「どんな方法でもいいから早く来て。お父さんは忙しくて毎日遅いし、屋根に積もった雪の重さで家の柱がきしむので怖い」という。困ってしまった私は、ふとSさんの事を思い出した。Sさんは長野住まいであるが新潟県柏崎の出身である。きっと二十九日の御用終いになれば、故郷に帰られるだろう。そうしたら高田まで乗せていってもらおうと思いついた。幸い連絡すると昼過ぎに出発するので一緒にどうぞということになった。



雪のない季節だと、長野・高田間は車で二時間もあれば行けるが、その日長野を出ると片側通行が多くなり、それもとどきどき停車して道の除雪を待つという状態で、高田に着くまでに五時間は経っていた。そして、これは後で解ったのだが、この高田の市街は大雪の時、国道はじめ主な

道路は閉鎖して、道に面した建物の屋根の雪を落し、大きなダンプカーで運び出すため、ほとんどの道は通れなくなるのであった。思えば最悪の時にその地に着いたのである。

バイパスのところで車から降りたのは、もう八時をまわっていただろう。乗せてもらった車のテールランプを見送って、ふり向いた市街地の方向は、もう一面の銀世界で、等間隔に並んだ電信柱だけが、その下に道があることを示しているばかりであった。大きな荷物を持った二人組の旅人の決死の雪中行軍はこうして始まったのである。

一足毎に、ひざまでズブズブともぐり、十分も歩かないうちにもう体中汗だらけになった。でも、まだ二人とも余裕があって、何やら話したり、声をたてて自分達のぶざまな姿を笑ったりした。半時間も歩いたらどうか、道の左手に少し離



れて五、六軒の家の灯りが見えた。目的の家までのだいたいの方向と、所要時間を知ろうと、道を折れていちばん近くの家の前に止った。そこは新聞販売店の看板が見え門灯が明るく点っている。しかしまたその玄関までが雪の中を行く。

「こんばんは、こんばんは」と声をかけながら玄関を開けると、正面の雪見障子を開けて四十才ぐらいの奥さんが、綿入ればてんを着て出て来た。ひと通り話をすると、「あんた達、方向が反対だわ。あの角まで戻って右の方へ行きなさんばだめです。それに南城町てば大部あるけど、歩きなさんかね」という。

きびすを返して歩きはじめたが、降りしきる雪は、ついさっき二人が通った足跡をもう消しかけていた。教えられたとおりに進み、しばらくすると自動車のヘッドライトが私の方に近づいて来た。私達はせまい雪道の両側に別れて雪の壁によりかかるようにして、その車をやり過ごそうとした。が、その車は私達の前にぴたりと止まり、ドアを開けて顔を出したのは、先程の新聞販売店の奥さんだった。「乗んなせ、部屋の中にいた主人が、あの奥さんはスカートだったし、どうも旅の人のようだ。このままでは死んでしまうかも知れねえし、車出してやれといったんです。ど



こまで行けるかわからんども、ジープですし力もありますから」という。雪国に住む人のやさしさにふれて涙が出そうになった。仏に会ったような気持で二人は車に乗せてもらった。車はうなりをあげながらゆっくり進み、ときどき雪のこぶに当たって大きくゆれ、私達は頭を車の天井にぶついたりした。その車も国道近くで通行止めになり、二人は深々と頭を下げて奥さんと別れた。国道ではサーチライトを照らしながら五台ばかりのダンプカーが、せっせと

雪の壁を切り取り荷台に積んで運び出す作業をしていた。作業していた人が近づいて来て、「あぶないですから車道を通らないように」という。仕方なく二人はこの高田の街独特の雁木(がんぎ)と呼ばれる屋根のある歩道を行かなくてはならない。この雁木の下にもあふれた雪がなだれ込ん

でいて、一軒ずつの山となり巾をいっぱい雪が埋めている。なんとか方角もわかったことだし、バス停五つばかりの距離と聞きそのまま進むことにした。



もう相当に疲労した体には、ポストンバッグもスーツケースも重すぎ、雪の山を登り、また降りる一足毎に本当に捨ててしまいたい気持ちになった。そのうち息子は私の荷物をもぎとると、これから進む方向に投げ出して、それに向かって三、四メートルを雪の中を泳ぐように近づき、そして又その先へ荷物を投げて進んで行く方法をとりはじめた。私はその後でできた足跡をたどって、彼の後姿を追いかけるという具合だ。はじめは元氣

づけにしていた会話も途中ですっかりとだえ、もう声も出ない。体からは湯気がたち、かじかんだ足先は痛さをとおりこしてただ熱い。それでもこの雪の中を黙々とついて行くばかり。突然彼がふりかえって、私をじっと見て、「もしこれ一人きりだったら死んでしまうかもね。俺が進まなければ、もう一人がどうなるかわからないから、こうするだけなんだ」といった。私は頼もしい奴だと思いながらおどけて「そうそう、前進あるのみ、ガンバ!! ガンバ!!」といった。雪はまだ音もなく降りつづいていた。

やっと見覚えのあるガソリンスタンドに近づき、そこのヘアピンカーブを曲れば、三百メートルほどで官舎に着く。雁木の通りが途切れた道は、人の通った様子はなく新雪が舞い上がっていた。ここまで来ると、家の灯りが見え門柱が少し頭をもたげている。玄関に向って声をかけるが誰も出て来ない。

家にたどりついた安堵感もあって雪の上におおむけに倒れ込んだ。顔の上に大きな雪片が、ふわりふわりと舞い下り、その冷たさが心地よい。我々二人の雪中行軍はこうして終わった。歩き始めてから六時間が経っていた。

今年も十二月に近くなり、そろそろ雪の便りも聞かれるようになった。ラジオのニュースを聞きながら、あの雪の中の何時間かが、大人になった息子と、五十路にはいった私との最後の母と子としての時間であったように思えてならない。

あの雪の夜から五年後、彼はこの世を去った。



5. 3. 2 川柳

アレソレで 通じる妻と40年
定年で 家事見習い 昼寝付き

おぼろ月夜
細川 力



《ときわから》

茨城同窓会は他の同窓会に較べて先んじているものが多々ありますが、文芸コーナーは発展途上です。今回、エッセイと川柳が掲載されました。詩、短歌、俳句などさらなる応募をお待ち申し上げます。



6 放送大学から10月生募集のお知らせ

同窓会の皆様はすでに卒業されていますが、向学心に燃える学人に10月生募集を知らせていただきますようお願い申し上げます。募集要項は以下の通りです。

自ら“学び”を楽しむ方々

まなびと

“学人”を応援します。

平成26年度10月入学生募集中

【出願期間】平成26年6月15日（日）～8月31日（日）

入学試験はありません

教養学部学生、修士選科生、修士科目生は入学試験がありません。
ただし大学院修士全科生は入学試験があります。

1科目から学べます

「選科履修生」「科目履修生」として1科目から学べます。
授業料は1科目2単位で11,000円です。（入学料は別途必要です。）

放送大学は、BSデジタル放送を利用して授業を行う正規の
通信制大学で、放送大学学園法に基づいて設置された大学です。

「放送大学」で検索
多彩な放送授業約300科目
学びたい科目がきっと見つかる

BS デジタル放送
231CH テレビ放送大学
531CH ラジオ放送大学

お問い合わせ・資料請求は

放送大学 茨城学習センター

水戸市文京2-1-1（茨城大学構内）

☎029（228）0683 放送大学 HP <http://www.ouj.ac.jp>

7 編集後記

2月後半に大雪がありましたが、卒業と入学シーズンがめぐってきました。卒業された皆様には放送大学で育まれたことが花開くことを祈ります。ときわのカラー版はウェブでご覧ください。

（滝口政光 記）